

夏の工場で床冷房有効

富士スバル 国内初の実証試験

一時的な結露 作業に影響なし確認

【前橋】富士スバル（斎藤社長）は今夏、環境設備施工会社のヤマトと同社の太田店（群馬県太田市）で国内初となるサービスマン工場での床冷房実証試験を実施した。2012年10月に新築した21ストールの工場で、空調設備に床冷房付き全蓄熱型永蓄熱システムを国内サービスマン工場では初採用している。これまで夏期の冷房は同システムのスポット冷風のみを用いていた。今夏は暖房用途に限っていた床配管を梅雨明けから冷房にも利用する実証試験を開始。床面に生じる結露がサービスマン作業に大きな影響を与えないことを確認した。



床冷房実証試験を実施した富士スバル「太田店」のサービスマン工場

ヤマトが提案・施工

同システムは同社が太田店の大規模改修工事を行う際に、サービスマン工場内の作業環境改善に向けて導入した「自動車整備工場快適空調システム」で、ヤマトが提案・施工した。電気料金が安い夜間電力を用いて蓄熱し、その熱を冷房または暖房に利用する。人の出入りが多い開放系の建物では有効なシステムとされ、同社の新車2店舗でも採用されている。太田店の工場内は各ストールに設けたファンコイルからのスポット冷温風と床面に埋め込まれた配管からの放射熱により、作業に最適な温度を保つ。ただし床面と配管からの放射熱との温度差により、夏期は床面に結露が生じることが予測されていた。このため床冷房は行っていない。今夏は高温に対応するため同店側が床冷房の稼働を要望

し、作業への影響を把握することも含めて実証試験を実施。一時的に結露が生じたが、作業に影響はなく、作業時間内は快適な涼感が得られていたとしている。